

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事基本・実施設計業務委託の
設計者選定結果報告書

1 選定結果

備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎建設工事基本・実施設計業務委託の設計者選定について、公募型プロポーザルを実施した結果、次のとおり、設計者の候補者として特定者と次点者を特定しました。

特定者	株式会社 あい設計
次点者	株式会社 大建設計広島事務所

2 審査経過等

(1) プロポーザル審査委員会

専門知識を有する外部委員、消防組合構成市の副市長及び部長（総務・建設）、三次市危機管理監及び備北地区消防組合消防長で構成する「備北地区消防組合消防本部・三次消防署新庁舎工事プロポーザル審査委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、技術提案書の審査を行いました。

[委員会委員（順不同・敬称略）]

委員区分	氏名	役職等
委員長	堂本 昌二	備北地区消防組合副管理者（三次市副市長の事務分担に関する規則第2条第1項に掲げる副市長）
委員	川島 満	広島県土木建築局 建築技術担当部長
委員	大原 直樹	庄原市副市長事務分担規則第2条第1項に掲げる副市長
委員	桑田 秀剛	三次市総務部長
委員	島田 虎往	庄原市総務部長
委員	加藤 伸司	三次市建設部長
委員	石原 博行	庄原市環境建設部長
委員	山田 大平	三次市危機管理監
委員	谷川 真澄	備北地区消防組合消防長

(2) 審査概要

4者から提出された技術提案書を審査し、技術提案書の特定（特定者1者及び次点者1者）を行いました。

[審査経過]

日 程	項 目	内 容 等
令和 5 年 8 月 29 日	第 1 回委員会	審査基準の策定
令和 5 年 9 月 5 日	公募型プロポーザルの公示	
令和 5 年 9 月 22 日	参加表明書の提出期限	提出者 4 者
令和 5 年 10 月 27 日	技術提案書の提出期限	提出者 4 者
令和 5 年 11 月 15 日	第 2 回委員会	公開ヒアリング 技術提案書の審査, 特定

3 審査の講評

(1) 総 評

今回のプロポーザルは、備北地区消防組合消防本部・三次消防署を移転新築するにあたり、「あらゆる災害に継続的かつ柔軟な対応が可能な配置と構造」、「消防力を充実強化する機能」等を備えた庁舎を実現することを目的に、特定テーマである「防災拠点としての配置計画及び動線計画」や「消防業務の特殊性を考慮した執務環境、空間構造及び動線計画」、「消防力の維持・向上、住民の防災意識高揚が図れる庁舎」、「誰もが使いやすく開かれた庁舎」の項目について、基本・実施設計に関する技術提案を求めたものです。

審査にあたっては、業務の実施体制及び4つの特定テーマに対する技術提案書の審査や公開ヒアリングの内容に加え、消防という特殊性を理解した提案であるかなど総合的な評価を行いました。

4つの特定テーマにおいては、具体的に「消防車両の迅速かつスムーズな出動動線であるか」「大規模災害発生時の拠点施設として、機能性と災害対応する隊員の体力回復のための住環境について最大限配慮されているか」「三次市・庄原市の地域実情に応じた訓練施設とするアイデアであるか」「将来に向け、時代の考え方にマッチできるよう柔軟な対応策が配慮されているか」など、与条件との整合性、工学的見地に基づく独創的なアイデア、また、理論的に裏付けがあり、説得力ある提案となっているかについて、審査とヒアリングを行いました。

(2) 特定者

特定者の技術提案書は、全般的に高い評価を得ており、特に「防災拠点としての配置計画及び動線計画」、「消防力の維持・向上、住民の防災意識が図れる庁舎」について高く評価されました。具体的には、消防が最も重要視する迅速出動という点において、緊急車両と来庁する一般車両との動線を分けし、緊急車両が車庫から迅速かつスムーズにストレートで出動できる点。また、庁舎内においても、昼夜問わず、出動準備室周囲（建物中央付近）に職員が待機している状態となるため迅速な出動準備が可能となる点。敷地内の配置においても、北側の高低差を利用し、多種多様な訓練の

実現を可能とする複合訓練施設のアイデア。さらに敷地をセットバックし、敷地内で車両が一周できる道路を有することとしているため、複数部隊による部隊運用訓練が可能となる点や大規模災害発生時の通行規制（一方向規制等）の利便性への配慮。災害対応する隊員に対し、仮眠室の内装を木質化するなど住環境への配慮や時代の考え方にマッチできるよう柔軟な対応策も具体的に検討されており、プロポーザルの趣旨を十分理解した提案である点が高い評価を得ました。

一方、今後の設計にあたって、敷地の切り盛りによる開発を含め、冬季における積雪や凍結による車両の通行障害（急勾配によるスリップ等）対策、省エネに関する具体的なコストコントロールの検討等、事業費のコントロールについて配慮した設計となるよう意見がありました。

(3) 次点者

次点者の技術提案も、消防組織を非常に深く理解されており、緊急車両と一般車両の動線の区分け、多目的訓練施設を真正面に見ることができる見学スペース、消防ポンプ操法などのイベント開催への配慮、できるだけコストをかけない総合訓練場（防火水槽含む）の整備検討等、細かい点まで配慮され、与条件の中で全体的にバランスの取れた現実的な提案である点等が高い評価を得ました。

一方、今回整備する消防庁舎は、24時間365日稼働する施設であり、省エネ対策について具体的な取組みが不明瞭であった点や、庁舎の形状から諸室配置において、事務室と緊急車両車庫までが離れてしまうなど課題があるといった意見がありました。